

安全管理や医療体制構築

モンゴルの医師ら研修

26日から
徳島大病院

徳島大病院（徳島市蔵本町2）は26日から7月8日まで、モンゴル国立医科大学の医師や看護師ら16人を受け入れ、病院運営に関する研修を行う。独立行政法人国際協力機構（JICA）の事業の一環。医療事故を防ぐ安全管理システムや救急医療体制の構築、病床管理の方法などを指導し、回国で質の高い医療サービスが提供できる組織づくりに生かしてもらおう。

<p>研修は病院管理全般と看護・患者管理、救急医療、物流管理システムの4業務。徳島大病院の職員らが指導に当たる。7月1日から2班に分かれ、同病院に加えて、愛媛大病院でも院内感染対策と医療情報システムに関する研修が行われる。モンゴルでは、患者</p>	<p>1人当たりの病床面積や看護基準などがあいまいで、高度な医療体制も整っていないのが現状。JICAが無償資金協力し、首都ウランバートルで医療人材の育成や医療サービスの向上を図る同国初の医療教育機関「日本モンゴル教育病院」が建設されている。</p>	<p>徳島大病院は留学生の受け入れなど同国の医療交流を長年続けてきた縁もあり、JICAから2017、18年度の2年間、「教育病院の運営管理及び医療サービスの提供の体制確立プロジェクト」を受注した。</p>
<p>モンゴルでは、患者</p>	<p>「研修を通じ、チー</p>	

△医療や手厚い看護体制などの重要性を伝えたい」と話している。
(笠井理)